

天王通り周辺 まちづくり タウンミーティング ニュース

今回は
ココ！
参加者
44名！

第1回

日時：1月13日（土）
9:30~11:45
会場：津島市文化会館視聴覚室
テーマ：
「天王通り再生プランの作品を通して」
3つの受賞作品の提案者をお招きして、
プランの説明を聞き市民と意見交換し
ました。

第2回

日時：2月17日（土）
9:30~11:45
会場：観光交流センター
テーマ：
「道(天王通り)の可能性について」
通りの歴史を振り返り、交通や福祉
など様々な観点からみた「道」の可能
性を考えます。

第3回

日時：3月17日（土）
9:30~11:45
会場：観光交流センター
テーマ：
「天王通りの将来像について」
第1回・2回を踏まえ、天王通りの
将来像について方向性を探りま
す。

■タウンミーティングの概要

津島市では、津島駅から津島神社までの賑わいを創出するため、その舞台となる「天王通り再生プラン」のアイデアを募集しました。これを契機に、将来の天王通り周辺のまちづくりについてタウンミーティングを今年度3回シリーズで開催しています。今回報告する第1回は、再生プランの優秀賞を受賞した3作品の提案者をお招きし、作品の説明を聞いてから、受賞作品ごとに3つのテーブルに分かれて提案者と市民が意見交換をしました。

このプランは、美しい案、きれいな案、素晴らしい案だ！ワクワクした。

高橋さんのまちづくりへのアドバイス
立派な神社や小路があって、駅前が空いている。これは大きなポテンシャルです。
力を合わせたら、伊勢のおかげ横丁みたいにもできる。

再生プラン 最優秀賞！
「天王の橋渡し」
～神に至るみち。天王通りを経てその津島神社参拝～
高橋 梢さん



再生プラン 優秀賞！
「見え隠れ」と「縁結び」
石井 大五さん

石井さんのまちづくりへのアドバイス
津島市民は、名古屋に近く利便性がよいせいか、自らの発信が弱い。発信力を高めて技術ある人達を呼び込むとよい。
この案は、通り沿いが一律ではなく、それぞれのレベルで段階的に進められ「身の丈レベル」で通りの再生に関われるのが特徴です。

神を感じるまちなら、「ご利益」「厄除け」「お守り」を来訪者へアピールしたい。

津島は、駅があって、小路があって、神社がある、と風景が移り変わっていくのが特徴です。

このまちで何を売りたいか？やっぱり「オンフット」で歩いてまわれるまちじゃないの。

この提案をもとに「できない」を「できる」に変えていきたい。

村山さんのまちづくりへのアドバイス
この提案の特徴は、「最小限の努力」で「最大限の効果」が得られること。
都市計画道路のセットバックの空間の活用がヒントになっている。

再生プラン 優秀賞！
「軒先ガーデンのある参道」
村山 健二さん
村山 由佳さん



歩道を拡げても公共空間は利用に制限が強い。民間の軒下そのまま活用した方が自由度は高く、有効。

既存の空きスペースの有効活用を市民からとんとんすることで少しずつ変えていける。

津島の地主は古い考えの人が多く、軒先スペースをみんなに提供してもらえるのが心配。

軒先ガーデンの利活用を推進する「まちづくり会社」がいるとオーナーの協力を得やすいと思う。

単純に「道路のフラット化」はいいと思った、ぜひ実現させたい。

昔のまち並みも軒下空間を上手に活用していた。軒先ガーデンはそれを現代に生かしたい。



通り沿いには人は住んでいるのに、夜は暗く閉ざされた感じがする。人の気配を感じられるように。

まち並みで、見せるべきところと、見せないところがあるのもいいという、発想が素晴らしい。

市民の活動拠点、アーティストの活動支援として空き家などを活用して場を創出する。

通りに52本の赤い鳥居を並べるところが、インパクトもあり、市民へ話題性もある良い提案だ。

天王通りは津島神社への参道ではあるが、本町通と比べて歴史的な位置づけは薄くてもいいのではないかと。

「天王通り再生プラン」提案募集について

【一般社団法人 津島にぎわい創出機構OSHI 代表 清水裕之】

今回の提案募集は、昨年7月に募集を開始し、続けて現地説明会を開催の後、10月に提案を締切りました。11月に第1次審査、12月に第2次審査を経て受賞作の表彰をしています。応募作品は全国から多数集まり、最優秀1作品、優秀2作品、佳作7作品の計10作品が入賞しました。本日は、最優秀賞と優秀賞の計3作品の提案者にワークショップに来ていただいています。

コンペの課題は「天王通りを津島駅から津島神社までの参道に見立てた賑わいを創出する再生プラン」です。天王通りを津島神社の参道と見立てて、全体のコンセプトとキャッチフレーズ、まち並みの新たな計画と機能を提案してもらいました。それだけでなく、提案された新しいまち並みの賑わいを持続させるための組織や運営方法についても提案を求めており、提案募集ではとても質の高い作品が集まりました。



これまでの皆さんの意見をふまえた緑地の計画案



最優秀賞：「天王の橋渡し」 高橋 梢
～神に至るみち。天王通りを経てその津島神社参拝～

両側には商店が軒を連ね、行き交う活気にあふれていた天王通り。しかしすでに空き店舗が多くを占め、さらに高層マンション化、駐車場化が進んでおり、往時の商店街としての機能はほとんど失われている。

マンション建設等の通り沿いの機能の変化や、本町通りをはじめとした小路・町家の修景、小路めぐりといった活動等、周辺の取組みを活かしながら、新たな住民をとりこみつつ、暮らし・訪れる人が一緒になって、小さな仕掛けとともに実験的・フレキシビリティに津島神社へと向かう参道として、天王通りの存在感を達成する。

■津島駅から津島神社までの架け橋となるための3つの要素

1. 神の駅：津島神社へと誘う雰囲気を出し施設・駅前広場づくり
2. 神のみち：暮らし・コミュニティの充実のための神庭整備、町方文化・歴史ある小路と7つの辻・辻づくり
3. 神の社：神社と一体となった参道眺望のある絵になる場所づくり

■天王通りを経て向かうからこそ参拝が楽しくなる仕掛けづくりの3つの要素

1. 空間の体験：両側側としてのスケールの性格を残したまま、暮らしやすくと・働くひと・訪れるひとが交わる通りとしての再興。
2. 文化の体験：辻に鎮座する「辻神様」、店舗を飾る「窓神様」など神の宿るみちの演出、津島に伝わる固有の文化の新たな形での再生。
3. 時間の体験：まちめぐり・宿泊観光を促す、おやすみ処・提灯ロードなど夜の魅力の新興。



優秀賞：「見え隠れ」と「縁結び」 石井 大五

■「見え隠れ」

天王通りは、参道の面影を残しながら、空き地などにより、地方のどこにでもあるまち並みとなっている。参道空間として「見せるべきところ」とそれ以外を「見え隠れ」で修景し、参道空間を再生する。

景観に配慮するため、「大鳥居」を設置することにより、景観阻害要因を見え隠れさせ、景観にリズムをつくる。まち並みに平行な方向では、「暖簾」など懐かしい仕掛けが、見せるべきものを強調し、それ以外を見え隠れさせる。建物を大きく改変せず、付加可能、取替可能な仕掛けである。さまざまな仕掛けの相乗が、繊細さと多様性を生む。修景は効果の高い拠点から始める。

■「縁結び」

津島神社や天王通りを、さまざまな広がり「縁」で活性化し、魅力的な参道文化をつくり上げる。

その要は、ものづくりである。その活動として工芸品や食べ物で参拝者を楽しませ、かつその門前文化に再生する。中心は、機器ソフトを備え、一人からのものづくり活動を支援する「ものづくりシェア工房」。津島市民がメンバーの「津島クラブ」「高校生ギャラリ」は津島の、「尾張の窓」は愛知の、「長屋工芸街」「工芸アーティスト・イン・レジデンス」は世界の広がりでのものづくりの縁で、新しい工芸品を通

して、参道を盛り立てる。ものづくりの力を備えたアーティストと市民自身は、修景の担い手ともなる。

「津島クラブ」は、この仕組みを支えるボランティア組織であり、さまざまな「縁」を媒介する。



優秀賞：「軒先ガーデンのある参道」
村山 健二、村山 由佳

本案では、道路拡幅を伴わずに、日常生活を豊かにし、お祭り時にも使いやすい参道空間を形成する以下の方策を提案します。

1. 天王通り沿道に多く見られる木造2層建物を、主にリノベーションによって1階を商業またはオフィス、2階を住居として更新し、1階の軒先にコモンスペース（軒先ガーデン）を設けます。市はこの形式での建物更新に対して補助金を交付し、軒先ガーデンはまちづくり会社が地権者と共同的に管理します。

このことにより、休憩・滞留・緑化等の機能が通りに加わり、景観的にも、町家や看板建築が点在する天王通りの景観を引継ぎながら、沿道にゆとり・潤い・賑わいを加えることができます。また地権者は自己負担を抑えつつテナント・居住者を募集しやすくなります。

2. 車道をかさ上げし、歩道とフラットにつなげます。歩道と車道は可動式プランターで区切り、街路灯は官境界際へ配置し路上の障害物を極力なくします。このことにより、現状幅員のまま道路を最大限一体的な広場として使えるようにします。

3. 軒先ガーデンと天王通りを管理する官民共同出資のまちづくり会社を立ち上げます。道路の日常維持管理活動を市から請負う代わりに、お祭り・イベント時の道路使用料を同社が収入として得ます。

軒先ガーデンには同社が各地権者へ貸し出すファニチャーを配置します。また、同社が循環バスを運営し、軒先ガーデンはバスの待合所としても機能します。

